

公益財団法人岩手県文化振興事業団第70回理事会議事録

- 1 開催日時 令和6年6月18日(火) 午後3時10分～
  
- 2 開催場所 サンセール盛岡 3階 瑞雲
  
- 3 出席者 理事総数 9名  
出席理事 9名  
理事長 石田 知子 理事 安藤 知行  
理事 泉 裕之 理事 岩渕 計  
理事 熊谷 常正 理事 柴田 和子  
理事 菅原 義子 理事 高橋 廣至  
理事 藁谷 収  
監事総数 2名  
出席監事 2名  
監事 佐々木 恵太 監事 田村 均次
  
- 4 議長  
理事長 石田 知子
  
- 5 決議事項  
議案第1号 業務執行理事の選定について  
議案第2号 令和6年度事業計画の変更について
  
- 6 議事の経過の要領及びその結果  
定刻、総務部総務課長が、本理事会は、定款第35条の規定に定める定足数を満

たしており、適法に成立した旨を告げ、理事長が議長席に着き、次の議事に入った。

(1) 議案第1号 業務執行理事の選定について

議長は議案第1号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明がなされ、採決の結果、全員異議なく次のとおり選定した。

業務執行理事	住所 盛岡市松園一丁目11番5号
	氏名 安藤 知行

(2) 議案第2号 令和6年度事業計画の変更について

議長は議案第2号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

7 その他

(1) 理事・監事から

《質問・意見等》

【理事】

前回の理事会でお話したかったが、内容をうまくまとめられなかったので、前回の議案書を見ながら感じたことをお話しさせていただく。

感じたことは、「こんなにすごいことをしているのだな。」ということ。博物館のテーマ展、展示会、講演会、観察会、美術館のコレクション展、企画展、関連講座、総務部事業の平泉世界遺産ガイドセンター、文化芸術を通じて被災地を支援する事業等々、どれか一つでもいいから行きたかったという思いである。

また、3月まで理事長を務めていた奥州市文化振興財団と共通した悩みがあるとも感じた。財団が持っている施設の取組みをいかに市民に知ってもらうかということ、また、市民を感動させる事業をいかにして作り上げるかということ、この2点がずっと課題であった。

指定管理ということで上からは儲けるように言われるが、お金がないというより、有効な方法を考え出せないという課題があった。そこで、財団で

は、実施している事業の一覧表をカラフルに作り、市に対し広報と一緒に配布することをお願いし、何とか年2回全戸配布することにたどり着いたところ。

県の事業団については、予算、決算等を見ても県民に知らせる方法がよくわからないが、ぜひその方法を教えていただきたい。

また、奥州市文化振興財団は、文化ホール関係が二つ、埋蔵文化財調査センター、スポーツ施設と、合計四つの施設を抱えているが、県の文化振興事業団が実施した事業の一つか二つでいいので、地方にお裾分けができないものかとも思う。それをやらせていただければ、県でこんなに素晴らしいことをしているのだと、市民に知らせることができると思う。

#### 【総務部総務課長】

県と市という違いもあり、130 数万人の県民に対しチラシ全戸配布というのは難しいが、少ない費用でできることとして、ホームページや旧ツイッターのX、フェイスブック等のSNSを利用しており、特に美術館等ではSNSでかなりの情報発信を行っている。

また、テレビ媒体を利用することも多い。県民会館の自主事業については、テレビ局や新聞社とタイアップして実施する例が多く、かなりの広告を打っている。美術館、博物館でも同様に、テレビ局とタイアップ又は広告代理店を通じて、CMや情報番組内での告知を行う例がある。

紙媒体のチラシやポスターも効果的であるので、博物館では盛岡市北部の施設やスーパーにポスター、チラシを置いてもらったり、美術館では盛岡市本宮地区等で新聞折り込みとして配布した例を承知している。

このように、それぞれの事業所で工夫を凝らしているところである。

#### 【美術館副館長】

美術館でも、広報は大変だと感じている。テレビCM本数を増やせば観覧者数につながるかというと、必ずしもそうではない。多くの県民の目に触れて、その中のいくばくかの方が足を運ぶということなので、企画展ごとに、なるべく多くの県民の目に触れる方法について知恵を出し合っている。なかなか取り上げてもらえない場合には、昨年度、館長にマスコミ訪問をしてもらい、記事として取り上げてもらったこともある。

また、先の堀内展については絵本の企画展だったが、通常マスコミの方々を集める内覧会に、図書館や本屋さんにも来ていただいた。各市町村の図書館では、春に絵本の企画等を実施しており、紫波町や都南の図書館等において取り上げてもらったことで、後半の観覧者数の増加につながった。

テレビCM以外では、SNSで取り上げることにより、それを見た方々が情報を発信するという形で拡散する。そちらにも期待したい。

#### 【博物館館長】

博物館では、全県の小学生にチラシを1枚ずつ配布している。昭和58年と比較すると、小学生の数は違うが現在の方が入館者割合は高い。この発想は職員から出たのだが、現在のデジタルよりもアナログの方が効くのではないかという思いがある。つまり、子どもたちが1枚ずつ家に持ち帰って、親に連れて行ってくれと言われれば、やはりそっちの方が効果が大きい。

また、市町村教育委員会議や教育事務所長会議、県立学校長会、副校長会等の場でも案内しており、岩手県の歴史、文化について、小中高校生のうちにぜひ一度来ていただきたいと考えている。

職員も、商店とかいろいろなところに行ってポスターを貼ってもらったりしている。

#### 【理事】

そういうようにチラシを配布されていることは知らなかった。大変ありがたいお話をうかがった。

先年、県芸文協が取り組んでいる発表会を奥州市のZホールで実施し、県の皆さんが、いろいろと取り組んでいるということを発表していただいたが、大変効果があった。今年も日本舞踊の会等が活発に活動している。生で見せていただいたことが説得力を持つ。何かの機会に、県南部の小さな美術館にでも来ていただければいいと思う。

#### 【理事】

先程お話のあった取組みは、体験フェスタ in 奥州というイベントで、去年奥州市で実施した。今年も体験フェスタ in イーハトーブとして花巻市で実施し、地元の方々の熱意もあり過去最高の動員となった。

芸術文化関係者以外に商店街にも声がけしてもらい、当日はキッチンカー等も出店していただいた。花巻地区の皆さんの非常に画期的な取組だった。

これまで、前年の取組みを視察し互いに刺激としている。奥州市で開催した際は花巻地区の方々が視察し、こんなに人を集めて盛んに実施している、これは負けられないという気持ちで頑張っていた。今年は、釜石・大槌地区での開催となるが、非常に期待しているところ。

ファミリーでの参加が多かったので、芸術文化の裾野を広げるということ、幼少時に芸術文化を体験するということが、子どもの将来にとって宝物になるのではないかとということで、地道に続けていきたい。体験フェスタは県内を一巡したものの、違った形で継続していければと考えている。

#### 【理事長】

先週、知事と両副知事に表敬訪問し、当事業団の決算の状況や今年度のイベント、来年度の事業団創立40周年記念事業等について報告した。

副知事からは、県政150周年記念と連携して進めたいこと、岩手芸術祭についても盛り上げていきたいことなどの話があった。また、副知事には事業団における主要課題、学芸業務や人件費の話についてもさせていただいた。

知事には、創立40周年記念事業に関連し、これからの文化芸術をどうしていくのかを考える40周年にしたいという話をさせていただいた。機会があれば現場にも足を運んでいただき、文化振興に御理解をいただくほか、我々が置かれている現状についても課題を共有させていただきたいと考えている。

#### (2) 事務局から

総務部総務課長から、次回理事会について、特段急ぐ必要がなければ、11月中旬に場所、議事内容を今後調整し、開催予定である旨説明があり、全員これを了承した。

以上をもって議事の全部の審議を終了したので、午後3時40分に閉会を宣し、解散した。

上記議事の経過の要領及び結果を明確にするため、理事長及び監事が記名押印す

る。

令和6年 月 日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第70回理事会

議 長 \_\_\_\_\_ 印

監 事 \_\_\_\_\_ 印

監 事 \_\_\_\_\_ 印